

# On your side

# 1

## 令和 4 年度（2022 年度） 10 年経験者研修 開講にあたって （中堅教諭等資質向上研修）

<https://toyono-jinikyo.com/>

豊能地区では、「子どもとともに学び続ける教職員」をめざす教職員像とし、法定研修を実施しています。今年度は小学校教諭 60 名、中学校教諭 59 名、養護教諭 5 名、合わせて 124 名の先生方が 10 年経験者研修を受講されています。豊能地区の 3 市 2 町合同でおこなう「共通研修」では、研修から学んだことや考えたことをどのように自校の取り組みにつなげていくかをグループで話し合うなど、お互いに交流することを大切にしています。この研修通信“On your side”もみなさんの振り返りシートの記述をもとに作成しています。研修内容を振り返り、学びを深め、広げるきっかけにしたいだけたらと思います。

第 1 回は、Web 開催（オンデマンド型）で、兵庫教育大学大学院特任教授の浅野良一先生に「学校組織マネジメント」をテーマに、演習を交えて動画で講義をしていただきました。教員として 10 年目がどのような時期であるか、キャリアステージにおける役割や課題についてお話していただきました。また、演習「SWOT 分析」では、自校を多面的に捉え直し、「あるもの活かし」の見方で強みを考えていくことで、学校組織を構築していく一員としての自身の役割を学びました。



### ～ 振り返りシートより ～

自分の今までの 10 年を振り返る機会になりました。また、自分がこれからどのような立場で学校に貢献していくべきかを考える機会になりました。教育目標や重点事項などをもっと意識して取り組むことの大切さを学びました。学校のいいところ探しは普段あまり意識することがなく、すぐに出てこなかったです。それを考え、「あるもの活かし」をすることが大事だというお話が印象的でした。また、「三遊間のゴロにとびつく」というお話も印象的でした。今の仕事で手一杯な感じはありますが、自分のできることを増やすためにも、もっととびついて経験するべきだと思いました。

これまで教えてもらう立場だったのが、いつの間にかこうして伝える立場になったのだと認識させられる内容でした。内容も具体例が多くありとてもわかりやすく、自校を思い浮かべながら研修を受けることができました。また、自分のウィークポイントをはっきりさせることができ、もやもやしていた部分がわかったので少しずつ改善していきたいと感じました。

私自身も足りない部分が気になり、どうしたらマイナス部分を改善できるかを考えがちでした。学校内外のプラス面を改めて考え直してみることで、わが校ならではの強みを見つけることができました。また、職員間で連携をとりながら取り組んでいくことの意義について考えさせられました。特に、中堅である自分たちが、学校の活性化のために重要な位置にあると意識できるようになりました。意見や情報を活発に出し合い、いろいろな人がいろいろな仕事と一緒に取り組んで考えていくことや、若手の先生をサポートしながら自分も成長すること。間にたつて、円滑な情報・アイデア共有を促していくことなど、これらを協力しながら取り組み、わが校の「強み」をいかせる方法を考えていきたいと思ひます。

中期キャリアに入り、今まで以上に責任感と自覚をもって学校組織の中核としての役割を果たしていくことの必要性を感じました。今まで自分がおこなってきた実践をもう一度この機会にふりかえり、経験年数の少ない先生に伝えていける一年にしたいです。学校が同じ方向を向いて進んでいくためにも、中期キャリアであるミドルリーダーの役割はとても重要だと感じます。業務量の多さでなかなか子どもに向き合う時間が少なくなっている中でも、学校教育目標やめざす子ども像などを再確認し、担当している校務分掌ともつなげて教職員自身が余裕を持って子どもと向き合えるよう提案していきたいです。

講義を通して考えたことは、「場数をふむ」から、「一芸を磨く」時期になっているということです。これまで、様々な学年の担任をし、多種多様な子どもたちに出会い、広く浅く学んできたという感覚がありましたが、これからは自分にしかない個性を伸ばしていく必要があると強く感じました。今は、道徳の研究に関心が高く、道徳をツールとして勤務校だけではなく他校の先生とも交流をする機会が増えてきています。一芸を磨くということは、狭く深くになるようにも感じますが、「狭い」になるかどうかは自分自身がどういう視点をもってキャリアを重ねるかで、いかようにも変化できると講義を聞いて感じました。自分自身がどう受け皿を持つかをこれから大切にしていきたいです。また、管理職と経験の少ない教職員を「繋ぐ」意識を高めるということも学びました。フラット型・ピラミッド型等、さまざまな組織体制がありますが、その中で、取れるか取れない時に積極的に働きかけることが大切だと再確認させられました。すべての仕事を「取る」のではなく、「任せる」ことや、「一緒にやる」こと、そして、「お手本になること」など、その時の状況に応じて自分の立場や役割を分ける必要性を感じました。忙しそう・大変そうにするのではなく、余裕をもって全体を見渡し、たくさんの教職員に働きかけられるミドルリーダーをめざしていきたいです。

学校教育目標については、私たちが理解したことを教科や学年団で共有していくことが大切、重点事項を若手に翻訳して伝えていく、という表現が大変腑に落ちるものでした。確かに、自分自身も経験が浅かった時には、日々の授業を進めていくことや、目の前で起こっている生徒指導に関わる問題を解決することに精一杯で、大きな目標を掲げていても、それを毎日意識していたかというところではなかったように思います。しかし、周りの先生方が相談にのってくださったり、方向性を示してくれたりしたことで、物事をうまく解決することができていたのだと思います。経験とともに立場も変わっていくことを肝に銘じて職務に臨みたいと思います。

ご自身のこれまでの経験や、今の学校での取り組み、これからのキャリアなど、現状と照らし合わせながら受講されたようすが伝わってきました。今後も年間の研修受講を通じてミドルリーダーとしての役割、「自分のできること」について考えていきましょう。



第1回の研修動画の中で、10年経験者研修についての年間の見通しや、提出書類についての説明をおこないました。**校外研修**の実施は、豊能地区の3市2町で合同実施をする【共通研修】(全5回)と、所属市町実施研修+選択研修(全6回)です。また、所属校における**校内研修**も、講義やコーチング、管理職の先生などからの指導・助言を受けながら実施して、それぞれの機会がみなさんのこれからのキャリアに役立つものであってほしいと願っています。今後も研修の手引や豊能地区人事協議会のWebページを活用しながら、年間の受講を計画的に進めていきましょう。

また、「教員の資質の向上に関する指標(豊能地区)」をもとに毎回の研修は「研修のねらい」を設定しています。(研修の手引 P.22~24 参照)みなさんのキャリアのめやすとして、今後キャリアを積み上げていく中で、これからの自分の課題は何かを明らかにするためにも「指標」を意識するようにしましょう。

**Webアップ  
していきま**

各市町実施の「相互交流研修」を豊能地区教職員人事協議会のホームページに掲載し、随時更新しています。実施日時・方法・場所等を確認してください。  
※申し込みは、各市町教育委員会(教育センター)の案内に従ってください。